

川崎市健康安全研究所 臨床検体を使用する調査研究概要

研究課題名	腸管凝集性大腸菌の薬剤耐性状況及び各下痢原性大腸菌の薬剤耐性率の比較検討
研究の概要	<p>ヒトに下痢などの消化器症状を起こす下痢原性大腸菌のうち腸管凝集性大腸菌（EAggEC）については、2011年にドイツを中心に発生した大規模食中毒の原因菌とされていますが、その際プラスミドにより基質特異性拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生能が伝搬されたことで新たな薬剤耐性を獲得した事が大きな問題となりました。さらに EAggEC は諸外国における調査研究において他の下痢原性大腸菌に比べ高い薬剤耐性率を示す報告もありますが、国内における同様の調査報告は少ないです。</p> <p>本研究は平成24年から平成26年までに本市で分離された EAggEC を含む下痢原性大腸菌の薬剤耐性率を調査し、比較検討することで EAggEC の薬剤耐性状況の把握を行います。さらに遺伝子検査により O 抗原を特定することで本邦における流行状況を把握することにより、公衆衛生の向上を目指します。</p>
検体採取期間	平成24年4月～平成26年12月
研究実施期間	平成28年8月22日～平成29年3月31日
連絡先	川崎市健康安全研究所 微生物担当課長 電話：044-276-8250（代表）